

ウシオ電機株式会社 2025年 個人投資家さま向け説明会

主な質問と回答

開催日 : 2025年9月2日

運営 : 大和インベスター・リレーションズ

説明者 : 代表取締役社長 CEO 朝日 崇文

Q1 : グローバルに事業を展開しているとのことですが、トランプ政権による関税措置が業績に与えた影響を知りたいです。

A1 : 今回の関税措置に関して、一定程度の影響はありますが、当社の場合に限定的です。直接的な影響を一番大きく受けるのは、中国で生産しているプロジェクターです。一部を米国に出荷しているので、これが対象になります。また、当社のランプは日本やフィリピンで生産しており、これらも対象ですが、サプライチェーンの対策を打ったり、価格の見直しを一定程度行ったりと、お客様のご協力を得ています。こうした取り組みにより、関税の直接的影響は限定的に抑えられると見えています。

一方で、間接的な影響もあります。お客様が今回の関税措置による今後の影響を懸念し、半導体の設備投資の判断を後送りするということが、ところどころで起きています。また、映像関係では、ハリウッド以外の他国で作られた外国映画に対して関税をかけるという話が、一時期ニュースになりました。こちらは、実際に適用するという話は今のところ出ていませんが、注視する必要があると思います。

Q2 : 新成長戦略における成長ドライバーは半導体の露光装置で間違いないですか。他に注力しているドライバーはありますか。

A2 : 最も注力している一番の成長ドライバーは、半導体アドバンスドパッケージ市場向けの露光装置で間違いありません。それ以外でも、半導体マーケットが成長著しく拡大しているので、露光装置以外の洗浄や加熱、ウエハー検査で使う光源なども非常に大きな成長分野と見て注力しています。

また、世の中でも問題になっている PFAS（有機フッ素化合物）の分解などのライフサイエンスの分野も、長期的な成長のために研究開発を進めている状況です。

Q3 : 株価の PBR が 1 倍を下回っているとのことですが、要因は何ですか。また、PBR を引き上げるために実行されている具体的な施策はありますか。

A3 : 株価低迷にはいろいろな要因がありますが、当社にて分析した結果、資本効率が課題と認識しています。特に ROE が長年 5%前後で推移していることが課題となっています。

従来から光源の需要はおおむね安定していて、収益の源泉として利益を一定程度安定的に生み出していますが、一部の光源市場においては、今後縮小傾向を見込んでいるため、半導体向けの露光装置や加熱プロセスなどの新しい分野に向けて、多くの開発投資をしています。私たちは、この分野のマーケットが将来成長すると見込んでおり、そこでウシオも成長できることに確信を持って開発投資をしています。しかしながら、株式市場はその辺りの確信を得られていないのではないかとみています。

従って、新成長戦略の中の具体的な施策として、事業戦略と財務戦略の両輪で取り組みを強化していくことを掲げ、事業戦略では、成長分野にしっかりとリソースを配分し、開発を促し、将来の成長を確実なものにしていくこと。また、財務戦略では、株主還元をしっかりと行いながら強化すること。さらに成長分野の進展の確信を皆様を持っていただけるよう、しっかりと IR で示すことを考えています。

Q4：競合先に対する M&A の実施により、今後どのような効果や成長が期待できるのでしょうか、また、今後の成長戦略における M&A の活用について教えていただけますか。

A4：今回の買収先であるオスラム社は当社の光源事業にとって一番の競合会社です。今回の買収は、事業の収益基盤を強化するために非常に大きな期待ができる案件です。現在、光源事業は、一部縮小していくマーケットもありますが、半導体に使われるランプに関しては、今後も成長が期待できる分野です。

今後も M&A は成長に必要な一つの手段として、M&A を含めたあらゆる選択肢を持って持続的な成長への取り組みを進めたいと考えています。

Q5：多くの製品で高いシェアを獲得していますが、競合他社に対する御社の優位性は何でしょうか。

A5：ウシオは、創業当時から光を明かりだけでなく、エネルギーとして活用することに着目。光の機能の活用方法をしっかりと理解している点に強みがあります。それにより、お客様のニーズに対し、光の機能を活用してきたこと、かつ、高度な製造ノウハウにより、多くの技術革新に貢献してきたことから、お客様から「光といえばウシオ」という高い信頼を得ているということが非常に大きいと思います。加えて、創業当時の考えである特定分野に特化するニッチトップ戦略も、高い競争優位性を築けた一つのポイントだと思っています。

以上